伊達政宗公生誕450年シリーズ

第十二回（最終回）

未来へつなぐ政宗公の精神

宮城学院女子大学学長　平川　新

国造りプロジェクト

伊達政宗公が豊臣秀吉の命令によって米沢から岩出山に転封（てんぽう）したのは、天正19年（1591年）。しかし、本格的な国造りに着手したのは、関ケ原合戦後の慶長6年（1601年）に仙台に移転してからでした。これは、徳川政権の樹立が地域の安定に直結し、仙台藩政に本腰を入れることができるようになったためです。政治の安定が地域や社会の充実に直結するのは、今も昔も同様です。

では政宗公は、どのようにして国造りに励んだのでしょうか。主な事項を、下の表「政宗公の国造り年表」にまとめています。

▲慶長使節船「サン・ファン・バウティスタ」（宮城県慶長使節船ミュージアムに展示公開中）

慶長6年は、仙台城と城下町の建設に着手した年です。同じ年に奥州街道の付け替えや、四方に延びる街道の整備と新たな宿場の取り立てが始まり、新田開発も促進されました。これらに次いで、木曳堀（後の貞山運河の一部）や四ツ谷用水の整備も実施されました。

城と城下町、街道と舟運。さらに生産基盤の確立。仙台藩の国造りは、まずは社会インフラを整備する大プロジェクトとして始まりました。

国の安寧と領民の幸福

慶長9年（1604年）からは寺社の造営にも取り組みました。大崎八幡宮は伊達家の守護神。廃寺を再興した瑞巌寺には、「家国興盛（かこくこうじょう）、人民富楽」を祈願しています。また政宗公は、陸奥国分寺薬師堂の再建も実施。国分寺は古代に全国各地で建立され、護国思想を体現した寺であり、政宗公の国を護（まも）る思いが再建に表れています。

こうして政宗公は、仙台での施政の始めに当たり、インフラの整備だけではなく、寺社を建立して伊達家と領民の富楽を祈りました。士民の心のよりどころとなる祈りの場も創出したといってよいでしょう。

表「政宗公の国造り年表」

年代	出来事
1601年	仙台に移る
1601年～	城・城下町を造る
1601～1610年代	街道・宿場を造る
1604年～	寺社を造る
1600年代初頭～	新田開発を進める
1613年	慶長遣欧使節を派遣する
1620年代～	木曳堀・四ツ谷用水を造る

仙台から世界へ

慶長18年（1613年）の慶長遣欧使節は、南蛮貿易に出遅れた政宗公の奇策でした。メキシコと仙台との貿易を実現し、平戸・長崎と同じように仙台領の港を国際貿易港にする構想だったようです。実現こそしませんでしたが、大航海時代というグローバリズムの時代に、外に打って出た政宗公の冒険心には目を見張ります。

東日本大震災後、世界は仙台に注目し、被災の悲惨さだけではなく、どのように復興の舵（かじ）を取るかにも関心が集まっています。次の時代へつなぐ仙台の国造りに、内外に大胆なプロジェクトを推進した政宗公の精神が継承されることを期待しています。

1年間連載してきた「伊達政宗公生誕450年シリーズ」は、今月で最終回となります。執筆等のご協力をいただいた方々に、心よりお礼を申し上げます。

［発行］仙台市総務局広報課　☎022・214・1150　FAX022・211・1921
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1　som001020@city.sendai.jp

VEGETABLE OIL INK　再生紙を使用しています　紙へリサイクルできますので、雑誌として分別してください